

学校法人五島育英会 学校評価制度

平成26年度 実施報告書

別紙1
大学を除く
学校用

学校名：東京都市大学付属中学校・高等学校 校長名：小野 正人

分野	教育設計に関する分野	配点 (25点)		
達成目標と具体的取り組み(要約)	達成状況	責任担当部署	評価	
校内組織を整備し、諸活動の活性化と円滑化を図る。 ・校内組織の整備(国際部の新設と進路部の組織改編)	国際部を新設し、帰国生入試の推進、グローバル入試の導入、海外研修プログラム(中3 マレーシア異文化体験)の策定など当初の目的を達成することができた。 進路部は学習Gと進路Gを一本化し、中学と高校に分けることで、無駄を省きスムーズに業務を行うことができた。	学校経営会議 国際部 進路部	配点 7 評価 S 得点 7.00	
国際理解教育の推進 ・海外研修旅行プログラムの作成 ・英語取り出し授業プログラムの構築	平成27年度の夏休みに、中3 マレーシア異文化体験プログラム実施に向けて現地の下見やプログラムの構築を行うことができた。 ネイティブスピーカーによる中1帰国生対象の英語取り出し授業実践を通じ、年度末にはシラバスの作成を行った。	学校経営会議 国際部 英語科	配点 7 評価 S 得点 7.00	
新コース制の確立を図り、学力の向上を目指す。 ・新コース制プログラムの実践(前期)と作成(中期)	新コース制1期生(中2)は、新たなプログラム(Ⅱ類の補習・講習の応用講座必修、NIE教育、校外実習など)を継続し、2期生(中1)もそれに続いて実践した。中2は過去最高の模試結果を続けている。 中期の教科シラバスを完成させた。	学校経営会議	配点 6 評価 S 得点 6.00	
学校間の連携・交流を図る。 ・系列校との進路の情報交換と協議 ・系列校とクラブ活動の交流	高大連携調整委員会等を通じて、等々力中高・塩尻高校と学習や進路に関する情報交換などを行った。 塩尻高校とは高校硬式野球部、等々力中高とは高校硬式野球部、中高バスケット部などが交流を行い、互いの部の活性化につながった。 新たに吹奏楽部が等々力中高との交流を目的に先方に赴き、指導法についての意見交換や合同練習を行った。また、相互の定期演奏会には花束を持参し応援することとなった。	学校経営会議 進路部 生徒部(生徒会G)	配点 5 評価 S 得点 5.00	
		分野得点合計	25.00	

分野	学力向上に関する分野	配点 (25点)		
達成目標と具体的取り組み(要約)		達成状況	責任担当部署	評価
	外部模擬試験・校内実力試験(中学)について再検討し、学力の向上を図る。 定期試験・外部模擬試験等の結果を綿密に検証する。 ・外部模試の検討 ・定期試験の分析と教科指導の改善・推進 ・外部講師による模試分析報告会の実施	高3については、9月河合塾記述模試をベネッセ・駿台マーク模試に変更した。これにより10月のベネッセ・駿台記述模試とのドッキング判定が可能になり、早期の受験指導に役立った。従来から実施している11月のベネッセ・駿台マーク模試はドッキング判定に使用できないため実施の有無について検討が必要である。 各定期試験終了後に教科会議を設定し、問題や結果の分析を行い指導の改善を図った。 外部模試の結果分析については、外部講師による分析報告会を年間複数回実施するとともに、各教科で結果の分析を行い、指導の改善を図った。	進路部 各教科 進路部 各教科	配点 5 評価 A 得点 4.75
	補習・講習、学習合宿の改善を図る。 ・補習・講習の実施報告書の作成と改善 ・学習合宿の改善と実施(参加者数は前年度135名を越える)	平常補習および長期休暇中の講習に関して、各教科で総括を行い、各担当者の実施報告書の一覧にまとめ、次年度の補習・講習計画立案に役立てる。 高校の希望制の学習合宿は、初めて高校全学年同時期・同施設(富士宮市)で実施した。参加者数は目標を大きく上回り、287名(高3:192、高2:85、高1:10)となった。	学校経営会議 進路部 各教科	配点 5 評価 S 得点 5.00
	自習室(20時まで)の活用を図る。 ・自習室利用者の増大(1日あたり平均30名を目指す)	年間を通じて、1日あたりの平均は24.2名となった(1学期32.7名、2学期21.6名、3学期16.7名)。2学期は柏苑祭などの学校行事、3学期は中学入試や感染症による学級閉鎖により利用者が減少したと思われる。	学校経営会議	配点 5 評価 B 得点 4.25
	英検・漢検の上級取得率を高める。 ・放課後の英検講座や授業内の漢検指導の強化 ・中2英検3級以上取得(90%以上) 準2級以上取得(20%以上) ・中3英検3級以上取得(95%以上) 準2級以上取得(50%以上) ・中3漢検準2級以上取得(25%以上) ・高1漢検準2級以上取得(40%以上)	英検は、中2で3級以上93.2%、準2級以上10.3%、中3で3級以上99.0%、準2級以上64.9%。 漢検は、中3準2級以上37.5%、高1準2級以上50.2%。	英語科 国語科	配点 5 評価 A 得点 4.75
	中3キャリアスタディと高1中期修論を通じて、将来の目標を明確にし、学習意欲の向上を図る。 ・キャリアスタディのプログラム改善 ・中期修論の指導体制の強化	中3キャリアスタディは担当者を中心に、プログラムの改善を図り、これまで3学期に実施していた発表会を11月に実施した。短期間で集中して取り組むことができた反面、発表準備の時間が不	進路部 中3学年 高1学年	配点 5 評価 S 得点 5.00

	<p>足気味という反省もあり、発表会までの指導に工夫が必要である。</p> <p>5/31 のスタート集会、9/1 の論文提出、11/8,15 のグループ発表会と例年同様のプログラムを実践し、在籍者 231 名のうち、229 名の提出がなされた（未提出者は、2 学期からの転入学者と不登校生）。今後の課題としては、中期修論作成以前に調べ学習を行わせるなどの工夫を必要とする。</p>		
		分野得点合計	23.75

分野	教育検証に関する分野	配点 (10点)		
達成目標と具体的取り組み(要約)		達成状況	責任担当部署	評価
	<p>授業力の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの項目(実技教科)の修正 ・公開授業の実施 	<p>授業アンケートを実施(7月・12月)。その結果を受けて、結果分析会・授業改善シートの提出等を実施した。中高共に得点率がほぼ75%(合格ライン)に達し、一定の成果が確認できた反面、中学では2回目の評価が低下した。その原因を分析し次年度に活かす必要がある。</p> <p>公開授業実施者は、各教科で中高各1名以上を教頭が指名し、年に3回程度実施する方法に変更した。実施日・時間が限定されているため、見学者は例年に比べ減少したと思われるが、実施者が指導案等の作成などの準備をしたことで個々の公開授業は実施者・見学者双方に有益のものとなったと思われる。</p>	<p>学校経営会議 各教科</p>	<p>配点 3 評価 A 得点 2.85</p>
	<p>模擬試験の各学年の偏差値の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模試の事前事後対策の指導 ＜全体、各教科・科目の目標値＞ ・中1、中2(11月 ベネッセ学力推移調査)Ⅱ類：平均偏差値62以上、Ⅰ類：平均偏差値57以上 全体偏差値60以上120名 ・中3(11月 ベネッセ学力推移調査)平均偏差値57以上、全体偏差値60以上100名 ・高1、高2(1月 進研模試)平均偏差値55以上、偏差値60以上80名 ・高3(11月 駿台ベネッセマーク模試)平均偏差値55以上、偏差値60以上50名、65以上20名。 	<p>* ()内の数字は前年度</p> <p>中学模試(11月)偏差値(英数国) 平均 中1 56.7 (58.5) (Ⅱ類 59.2 (62.9) Ⅰ類 55.5 (57.6)) 中2 56.3 (55.5) (Ⅱ類 62.2 Ⅰ類 53.3) 中3 55.9 (51.0) 60以上 中1 80名 (113名) 中2 77名 (71名) 中3 86名 (26名)</p> <p>高1、高2模試(1月)偏差値(英数国) 平均 高1 55.4 (54.3) 高2 57.4 (58.2) 60以上 高1 68名 (58名) 高2 72名 (74名)</p> <p>高3模試(11月)偏差値 平均(5教科) 54.4 (56.4) 60以上 文系(国英社) 34名 (60名) 理系(数英理) 36名 (29名) 65以上 文系(国英社) 17名 (37名) 理系(数英理) 15名 (11名)</p> <p>中学は、2年Ⅱ類の平均偏差値を除いて、目標の数値を越えることはできなかったが、2年・3年は過去最高の平均偏差値と偏差値60以上の人数を記録した。</p> <p>高校は、1年と2年の平均偏差値は目標を達成したが、偏差値60以上の人数はやや下回った。3年は平均偏差値をやや下回ったものの偏差値上位の人数は目標を上回った。</p>	<p>進路部 各学年 各教科</p>	<p>配点 3 評価 A 得点 2.85</p>

<p>難関大学現役合格者の増加を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験対策指導の強化 ＜現役生の大学合格目標数値＞ ・国公立大：60名（難関国公立大10名以上含む）（*難関国公立大=旧7帝大、東工大、一橋大、国公立大医学部） ・早慶上智理科大ICU100名 ・GMARCH：120名 	<p>3月31日現在の現役合格者数は以下のとおり。</p> <p>国公立大：52名（難関国公立大6名）</p> <p>早慶上智理科大ICU：90名</p> <p>GMARCH：166名</p> <p>GMARCHの合格者数は大きく上回ったが、その他の項目は目標を下回った。この学年は中学入試時（2009年）に志願者数が大きく減少し、難易度が低下した学年であったが、2年前の中高一貫一期生の合格者数に近づいた結果となった。</p>	<p>進路部</p> <p>高3学年</p>	<p>配点 4</p> <p>評価 B</p> <p>得点 3.40</p>
		<p>分野得点合計</p>	<p>9.10</p>

分野	生徒活動に関する分野	配点 (10点)		
達成目標と具体的取り組み(要約)		達成状況	責任担当部署	評価
	<p>生徒の自治活動のさらなる推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会会則の変更(中高生徒会組織の一本化と中央委員会の設立) 	<p>前期生徒総会において生徒会会則の変更(中高生徒会組織の一本化と中央委員会の設立等)が認可され、2学期には中高合同の総務役員選挙を実施し、それを受けて3学期に各委員会の次年度の委員長等の選出が行われた。柏苑祭でのマスコットキャラクター作成の取り組みや携帯・スマホ利用のマナー啓発などの生徒の自治活動が浸透した1年といえる。</p>	<p>生徒部(生徒会G)</p>	<p>配点 5 評価 S 得点 5.00</p>
	<p>クラブ活動の活性化を図り、クラブを通しての人間性の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動のあり方を再検討 ・大会等の成績目標: 体育・文化部、個人・団体: 全国レベルの出場2件以上、関東大会の出場5件以上、都大会出場10件以上 	<p>部活動のみならず教科・個人活動での実績も顕著だった。いずれの項目も目標数値を上回った。</p> <p>【世界大会】 ロボカップジュニア(2位)</p> <p>【全国大会】 中学少林寺拳法部、高校競技スキー部、中学自動車部(2年連続優勝)、中高エレクトロニクス研究部(2位)、中高鉄道研究部(理事長特別賞)、クエストカップ2015、統計グラフコンクール(佳作)スーパーコンピューティングコンテスト2014、情報オリンピック(予選Bランク2名)</p> <p>【関東大会】 中学少林寺拳法部、フラッグフットボール部、高校競技スキー部、アメリカンフットボール部、アイスホッケー部、中学自動車部(東日本大会優勝)、高校自動車部(東日本大会5位)</p> <p>【都大会】 中/高卓球部、中/高陸上部、中/高サッカー部、中/高剣道部、中学少林寺拳法部、中学バドミントン部、高校硬式野球部、高校競技スキー部、東京都統計グラフコンクール(都知事賞・佳作・努力賞)(都知事賞)</p>	<p>生徒部(生徒会G) 各クラブ</p>	<p>配点 5 評価 S 得点 5.00</p>
			<p>分野得点合計</p>	<p>10.00</p>

分野	入試管理に関する分野	配点 (10点)	
達成目標と具体的取り組み(要約)	達成状況	責任担当部署	評価
<p>帰国生入試に加えてグローバル入試導入を検討し、30名程度の入学者を確保する。</p> <p>・グローバル入試の導入</p>	<p>帰国生・グローバル入試周知のため、校内では、これらに特化した説明会を7月と11月に実施し、国内での外部説明会に参加(3回)、海外(欧州、北米、アジア)での説明会実施および教育施設への訪問などの広報活動を展開した。帰国生入試は1/6に行い、志願者数194名、受験者数192名、入学者数23名となり、グローバル入試は志願者数49名、受験者数20名、入学者数7名となった。一般入試合格での帰国生入試受験者数を含めると、帰国・グローバル入試受験生の入学者は33名となっている。</p>	入試委員会	<p>配点 4 評価 S 得点 4.00</p>
<p>中学受験者数は5年連続で都内1位を維持し、結果偏差値及び入学者の平均偏差値を1ポイントアップを目指す。</p> <p>・学校説明会、パンフレットの広報誌の制作、学校HPの活用</p>	<p>総志願者数は5424名(昨年比3%増)で5年連続都内最高、本校史上過去最高となった。受験者数は2940名(7%増)で、昨年度実績を上まわり、目標を達成した(帰国生入試を含む)。首都圏全体では受験者数がほぼ横ばいの状況の中で、6年連続の上昇となった。実質倍率は学力上位者の受験者数増加に伴う歩留まりの低下を予測し、合格者数を多く出したため、昨年をやや下回る倍率となった。しかし、入学手続き者340名、辞退者は例年の半数以下の14名であり、入学予定者は326名(Ⅱ類75名、Ⅰ類251名)となり、8クラス編成となっている。</p>	入試委員会 広報部	<p>配点 4 評価 S 得点 4.00</p>
<p>学則定員を満たさない学年の転・編入試験導入を検討する</p> <p>・平成27年度から点・編入学制度の導入</p>	<p>平成27年度1学期より、帰国生並びに国内転住者対象の転・編入試験を導入するために、その要項を作成し、2/18より募集を開始した。今回は新高2・高3の学年のみ募集した。相談者は複数あったが、受験生はいなかった。</p>	学校経営会議 教務部・国際部	<p>配点 2 評価 A 得点 1.90</p>
		分野得点合計	9.90

分野	その他に関する分野	配点 (20点)		
達成目標と具体的取り組み(要約)		達成状況	責任担当部署	評価
	教員の職務を再検討し、生徒指導に関わる時間を確保する。 ・会議の回数や時間の削減	会議は前年度とほぼ同じ回数を実施した。教科連絡会議の隔週実施は実現できなかったが、他の会議と同様に開催時間は短縮できた。	学校経営会議	配点 3 評価 A 得点 2.85
	年2回の三者面談を実施する。 ・三者面談の実施	夏休みまでの三者面談は各担任が実施。2学期以降は希望者対象で実施し、目標は達成した。	各学年	配点 3 評価 S 得点 3.00
	生徒の規範意識を高め、行動指針を確立し、道徳心・愛校心を養う。 ・いじめ問題、SNS 問題などの研修会や道徳授業での指導	中1生に対して入学後すぐに携帯電話及びメールに関する講習会を実施した。また、中1生を対象に警察とスタントマンによる自転車安全講習を行った。 3学期には、中学3学年の生徒を対象に自転車安全教室を実施した。	生徒部(生活G) 各学年	配点 3 評価 S 得点 3.00
	校務システムの構築と効果的な運用を図る。 ・システムの円滑化 ・教務部内での業務引き継ぎ	校務システムへの対応が、広く教員の間で認知され、運用できるレベルに到達した。一方で、担当教員の負担も大きく、組織として改善が必要なため、次年度は担当者を複数配置し、引き継ぎを行っていく予定。	教務部 事務室	配点 2 評価 A 得点 1.90
	教員研修制度の積極的な運用を図る。 ・校内研修会の実施と校外での研修会への積極的参加	長期休暇中の校内研修(夏研・冬研)を設定し、学校改革の課題を中心に適宜取り上げ、全教職員の共通理解を図った。夏研・冬研共に外部講師を招いて、授業アンケート結果に基づく結果分析報告会と自己申告書の作成と提出を行った。また夏研では、他校の先生を招いて、SNSの基礎知識と問題点、生徒指導のポイントに関する研修会を実施した。	学校経営会議	配点 2 評価 S 得点 2.00
	発達障がいなど指導困難な生徒の支援を図る。 ・カウンセラーとの連携	毎週行われる生活グループの定例会議を通じ、各学年での問題行動などに発展しそうな、言動や行為をできるだけ早く発見・把握し、スクールカウンセラーの意見を取り入れ、指導に生かした。	学校経営会議	配点 3 評価 B 得点 2.55
	よりよい人事管理を進める。 ・研修会への参加	新人事制度が導入され6年目となった。法人傘下校での統一が図れていないなど課題もあり、評価者の研修会を3回実施し各学校の課題を共有し改善を図った。被評価者の研修会は新採用者を対象に1回実施した(法人主催)。	学校経営会議	配点 2 評価 A 得点 1.90
	衛生委員会が中心となって、職員の健康維持・増進・病気等の予防に努める。 ・産業医との連携と衛生委員会の活動	義務づけている健康診断の実施後、診断結果を産業医にチェックしてもらい個人に伝え改善を促した。校内を産業医と巡視し、研究室内の整備等改善への助言を与えた。 今年度は、体調不良を訴える教師が多	衛生委員会	配点 2 評価 S 得点 2.00

	く、産業医との面談を複数回行い、健康状況の把握や、業務への配慮など適切なアドバイスのもと対応に努めることができた。		
		分野得点合計	19.20

分野名	配点	得点	得点率
教育設計に関する分野	25	25.00	100%
学力向上に関する分野	25	23.75	95.00%
教育検証に関する分野	10	9.10	91.00%
生徒活動に関する分野	10	10.00	100%
入試管理に関する分野	10	9.90	99.00%
その他に関する分野	20	19.20	96.0%
合計	100	96.95	96.95%
評価点 (C配点)	得点 × 0.2 =	19	95%

※評価の根拠資料がありましたら添付してください。